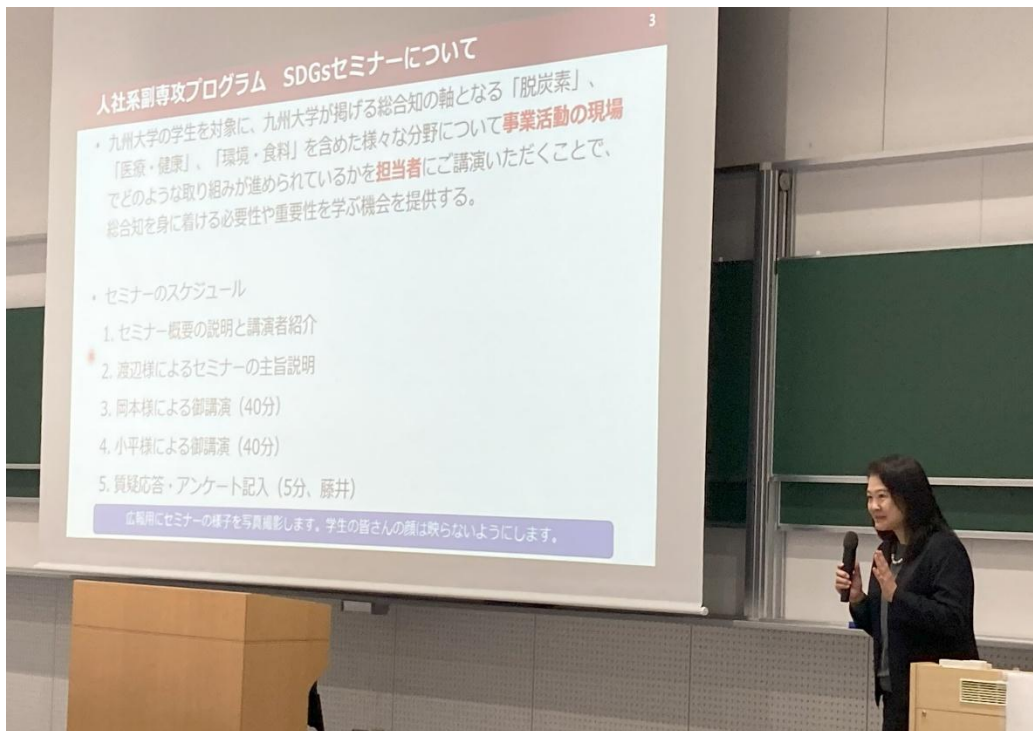


人社系副専攻プログラム SDGs セミナー vol. 7 を実施いたしました

九州大学人社系協働研究・教育コモンズが主催します SDGs セミナー vol. 7 を、2024年11月27日（水曜日）に開催いたしました。本セミナーでは、三菱 UFJ 信託銀行株式会社・サステナブルインベストメント部の岡本卓万様と株式会社日本経済新聞社・上級論説委員の小平龍四郎様に「サステナブル投資で、持続可能な未来をつなぐ」というタイトルでご講演をいただきました。

本セミナーには経済学部や文学部、法学部などの人社系学部に加えて、農学部など幅広い学部から約 200 名の参加登録がありました。セミナー冒頭に三菱 UFJ 信託銀行株式会社・サステナブルインベストメント部の渡部泰子様よりセミナーの主旨についてご説明いただくとともに、金融の現場で何が起きているかについて、体験談も交えながらご紹介いただきました。続いて、岡本様、小平様よりサステナブル投資に関するこれまでの変遷や現状と課題、さらには将来起こり得る変化について、現場で得られた最新の情報を基にお話しいただきました。参加学生は持続可能な社会の構築に向けた金融業の取り組みについて聞き入るとともに、ESG 投資に代表されるサステナブル投資の位置付けが、米国のトランプ次期大統領の下で大きく変化しうる点について、熱心に報告を聞いていました。



写真①：三菱 UFJ 信託銀行株式会社・渡部様による趣旨説明



写真②：三菱 UFJ 信託銀行株式会社・岡本様によるご報告
「サステナブル投資で持続可能な未来をつなぐ」



写真③：株式会社日本経済新聞社・小平様によるご報告
「サステナブル/ESG 投資の現状と未来」



写真④：セミナー会場の様子

■セミナー参加学生からの感想

- 日本経済新聞社の小平様の講演では、最新の ESG 投資事情について多くの「新たな発見や学び」を得ることができました。特に、アメリカで従来の ESG 投資 (ESG1.0) が下火となっている点、そしてその背景にアメリカ人特有の合理的な気質があるというお話は、金融の最前線を取材されてきた新聞社の方ならではの視点で、非常に示唆に富んでいました。さらに、講演の最後に提示された ESG2.0 の方向性は、私にとって大きな刺激となりました。具体的には、ESG を単なる「善意」や道徳的な行動の延長ではなく、企業の価値創造や長期的成長に直結する戦略として再定義する必要性に感銘を受けました。この視点は、ESG 投資を一時的なトレンドではなく、持続可能な経済システムの重要な柱として捉える意識を改めて教えてくれました。講演全体を通じて、ESG 投資の理解は単なる金融知識にとどまらず、社会全体の課題解決に寄与する手段であると感じました。この視点を大切に、今後の学びに活かしていきたいと思えます。
- 今回の講義では経済学だけではなく SDGs の知見も得られる良い機会となりました。冒頭の「プラネタリーバウンダリー」という言葉も初めて聞き、意識が高まっているというお話を聞いて私自身も考えていかなければならないという危機感を覚えました。また、単なる知識だけではなく今後の就職活動でも使える知識を得ることもできました。就職活動の一環として企業が行っている SDGs を意識した活動を調べることがありますが、今後どのような点に着目して企業研究をしていけばよいか学ぶことができたので実践していきたいと考えます。「サステナブル投資」という投資は今回の講義で初めて聞きましたが、非財務諸表を踏まえた定性的な評価を行うという点が、現在大学で学んでいる内容にもつながるので今後は今回の講義で習ったことも交えて学習していきたいです。日本ではまだ非財務諸表の活用が進んでいないように感じるので、今後の課題や対策に注目していくと面白いと考えました。

後半では日本経済新聞の方が講演してくださり、普段からニュースを全然見ていなかったけれどこれからは新聞も読む必要があると改めて感じました。一例として大統領選挙についてのお話がありましたが、私はネットニュースに流れてくるトランプ氏の活動報道からすでに大統領に就任したのだと誤った解釈をしてしまいました。YouTube で流れてくるニュースやネットニュースを見ただけで知った気になっていましたが、その中には誤った知識もあり新聞などの正確な情報を伝える媒体の必要性を改めて感じました。

- このセミナーを受講する前は、ESG 投資・サステナブル投資は一種の慈善事業のようなものだと考えており、企業が自社の利益はある程度捨てて社会や環境のために動くという利益のことは考えられていないのではないかという認識であった。しかし実際はそうではなく、長期的に利益を出すために行われているものでその過程で社会や環境に配慮した取り組みが行われているということを新たに知ることが出来た。投資家にとっても企業にとっても win-win となるという側面も鑑みると ESG 投資は今後さらに役割が大きくなるのではないかと考えた。

SDGs は国や企業、個人などすべてのステークホルダーが参画すべきであるという考えを初めて知った。これまでの認識としては、SDGs はどこか国や企業だけに求められているものであるという認識で、自分に何が出来るのかあまり考えたことがなく他人事の所があった。しかし個人にも持続可能な行動が求められていることを学んだため、小さいことでも自分にできることを見つける必要があると痛感した。

アメリカの動きが ESG 投資に大きく影響することが驚きであった。ESG 投資は1つの経済事象であると捉えていたが、政治の動きに左右され、特にアメリカの動きには大きく影響を受けるということを初めて学んだ。「ESG は woke である」という主張は皮肉満載でこのような風潮がアメリカで広まっている以上 ESG 投資の未来の雲行きは怪しいのではないかと考えた。

- 10 年くらい前から ESG 投資はよく聞くワードではあったが、理念が先行して実態が伴っていない場合も散見された。2020 年以降は定義を厳密に定めて投資において利益を出すという動きが投資会社や事業会社の経営方針にも定着しつつあり、ESG 投資も曲がり角を迎えている。CSR は慈善事業など非営利活動で社会に貢献するという考え方が主流だが、最近の ESG 投資は環境や社会責任に配慮しているかを重視して中長期的に利益を生み出すという点で本業全体に関わる問題として認識が深まっていることは大きな発見だった。信託銀行は長期保有を前提とした資産運用が多いことから ESG 投資との相性も良い。スクリーニングとエンゲージメントで投資先を SDGs に配慮した経営に変えていっているのは金融グループの社会的影響力の大きさの賜物だと強く思う。

ESG 投資が言葉として使われなくなってきたのは意外だった。トランプ政権は環境保護に関心がないことから政策の後押しで ESG 投資が進むことはないと思う。一方で外部性を考慮した事業計画が必要であることは今後も変わることは考えにくく、投資家が個別に企業の ESG への取り組みを評価して長期的な観点で投資判断を行う仕組みが構築されていくのではないだろうか。将来、社会人として株式投資をする上で今回の講演は非常に参考となる内容だった。

- ESG 投資の流れははまだ拡大を続けているというイメージを持っていたが、アメリカを中心に懐疑的な見方が広がっていることを初めて知ることができた。また現場で活躍されている方から、サステナブル投資のパフォーマンスはそれほど良くないという事実を聞くと、理論的・理想的な投資や経済の在り方と実態の間には大きな乖離があるように感じられた。全体の話をつまえると、今後サステナブル投資は単に企業を評価する際のリスク評価のひとつの手法に過ぎなくなるのではないかと思った。
- SDGs 達成に向けた取り組みと CSR について、同じものだと思っていた。今回のセミナーで、CSR は本業とは異なる活動であるのに対して、SDGs 達成に向けた取り組みは、あくまで本業をサステナブルなものにすることで、より大きな、根本的な問題解決を目指していることを理解することができた。他になるほどと思ったのは、ユニバーサルオーナーや超長期投資家にとっては、経済全体の持続的な成長が利益になるから、ESG 投資を積極的に行うということだ。逆に言えば、短期で小規模な投資を行う多数の個人投資家にとっては、ESG 投資を行う動機が乏しいのかもしれない。ESG 投資に批判的なトランプ氏に多くの票が集まったのも、これが一因なのではないかと思った。ただ、ESG 投資や SDGs 達成に向けた取り組みもボランティアではなく、リスク回避などの利益に繋がるメリットがある。その長所を伸ばし積極的にアピールしていくことが、持続的な成長や開発に重要な役割を果たすだろうと思った。
- サステナブル投資の定義やなぜ近年注目を集めているのかが分かった。近年、環境問題や人権問題への意識が高まり、企業や投資家が SDGs を意識し始めている。そのためサステナブル投資への注目度も高まっている。

しかし、ESG に関しては、日経の記事数は数年前に比べると下火になっており、アメリカでは下火になるどころか逆風さえ吹いているという。人々が飽きたという理由もあるが、反 SDGs のトランプ氏が再選したことが大きな理由と考えられる。投資のトレンドは経済のみならず政治によっても大きく変動することを知った。
- 長期投資と短期投資の本質的な違いについて理解を深めることができました。投資先企業の持続的な成長が機関投資家の利益に反映される仕組み（インベストメントチェーン）が、長期的な利益の向上につながることで、そして企業の成長が経済全体の発展を促し、最終的には家計にも還元されていく流れを知りました。また、長期投資は単に利益を追求するだけでなく、環境や社会への影響を考慮する点に特徴があります。このような投資を通じて、企業の成長だけでなく、環境や社会が改善され、社会全体で「Win-Win」の関係を築ける可能性があるかと理解しました。

九州大学
 KYUSHU UNIVERSITY

九州大学 人社系副専攻プログラム

SDGs vol.7 セミナー

持続可能な社会に向けた現場の取り組みを学ぼう!

本セミナーでは、持続可能な社会に向けた活動に取り組む企業担当者にご講演いただき、人文社会科学の多様な視点から社会課題を考える必要性について学ぶセミナーです。

vol.7は、サステナビリティと投資のチカラで、サステナブルな未来を築いていく三菱UFJ信託銀行の挑戦を紹介します。

企業担当者や他学部の学生とSDGsについて学び合い、交流を深める機会でもあります。是非ご参加ください。

九州大学
 人社系協働研究・教育コモンズ

サステナブル投資で、持続可能な未来をつなぐ **MUFG**
 三菱UFJ信託銀行

SDGsの言葉に象徴される地球環境・経済に配慮した持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティの考え方が、地球規模の大きなテーマとなっています。私たち、三菱UFJ信託銀行は年金や投資家からのご資産をお預かりし、運用業務をしております。今、運用の世界でもサステナビリティを考慮していくことが求められており、地球規模の社会課題を解決していくには、サステナブル投資が重要と考えます。本セミナーでは、今後サステナブルな未来を築いていく皆さま方が、サステナビリティへの取り組みに向けて、何ができるのかを考えていただけるきっかけになればと思います。

小平 龍四郎
 こだいら りゅうしろう
 上級編集委員
 日本経済新聞社

岡本 卓万
 おかもと たくま
 サステナブルインベストメント
 スペシャリスト
 三菱UFJ信託銀行

| 日時 | 会場 | 参加申込 |
|--|---|---|
| 2024 11月27日(水) 10:30-12:00 開場 10:10 対面開催 約90分 | 九州大学伊都キャンパス イーストゾーン 大講義室Ⅱ 定員▶ 300名 対象▶ 九州大学の 学部生・学府生を対象 | 事前参加登録のお願い 右記二次元コードの リンク先申込フォームを ご利用ください。 登録締切/11月25日(月) https://forms.office.com/r/cn3rP43u9Y |

[主催/お問合わせ] 九州大学 人社系協働研究・教育コモンズ 事務局 enquiry-commons@cmns.kyushu-u.ac.jp

参考資料：人社系副専攻プログラム SDGs セミナー Vol.7 ポスター